

## 平成 30 年度 研究計画書

### Research Plan FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカⅡ講座 准教授
氏名 Name	BERTELLI GIULIO ANTONIO
専門分野 Academic Field	イタリア史、日本史、交流史

### 平成 30 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2018 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	幕末・明治初期における日伊交流史				
<p>研究計画 (400 字～500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)</p> <p>平成 30 (2018) 年は明治維新 150 周年であるので、幕末・明治初期の日本史における日伊交流の位置づけを明らかにし、その重要性を浮き彫りにした様々な国内外プロジェクトに参加するつもりである。</p> <p>第一に、平成 30 年 9～11 月にイタリア・トリノ県、ラッコネージ村にて開催される展示会「<i>Seta – Il filo d'oro che unì il Piemonte al Giappone</i>」(「絹・日本とピエモンテを結んだ黄金の糸」)のパネルやカタログの作成などに参加し、手元にある様々な物品(製紙・蚕種関係の書籍などの私物)を展示する予定である。</p> <p>第二に、1873 年 8～11 月に日本を訪れたイタリア海軍士官カミッロ・カンディアーニ(Camillo Candiani)の未刊書簡を一冊の書物にして全文公開しようという末裔(Giovanni Riccardi Candiani)の依頼で、日伊交流史をまとめた序文と書簡に現れる日本関係記述の一部の説明を含む脚注の執筆活動に携わっている。</p> <p>第三に、イタリア公使夫人マティルド・サリエ・ド・ラ・トゥールが 1869 年 6 月に行った内地旅行に関する旅行記とスケッチアルバムなどを中心とした論文(2017 年 3 月に東北大学で行った研究発表に基づくもの)を執筆していると同時に、この貴重な一次資料のフランス語から日本語への翻訳を行っている。</p> <p>第四に、10 月 11～13 日にアメリカ・ニューヨークにある Stony Brook University にて開催されるシンポジウム「<i>Italy and East Asia: Exchanges and Parallels</i>」において、「<i>It-aliens in Meiji Japan: Italians discovering Japanese language in the early Meiji era</i>」という題名の研究発表を行うつもりである。</p> <p>最後に、教育活動として、イタリア語専攻の 1, 2 年生が文法の授業で利用できる、イタリア語の文法を徹底的にまとめた教科書(世界言語シリーズ・イタリア語)作成の最終段階に入り、平成 31 年 3 月刊行に向けて、9 月末に原稿を提出するつもりである。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	03010	03020	03040		
キーワード Keywords*2	日伊交流史	幕末・明治初期	養蚕	カンディアーニ	イタリア公使夫人マティルド